

一体感をもって挑戦を…

あけましておめでとうございます。皆さま方におかれましては、ご健勝にて輝かしい新春をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。また、旧年中は町行政の各般にわたり、深いご理解と温かいご支援を賜り厚くお礼を申し上げます。

昨年末のサッカーワールドカップでの日本代表チームの活躍、躍進は記憶に新しいことと思います。第一次予選では、強豪国と言われるドイツ、スペインに逆転で勝利し、見事に決勝トーナメントに進出されました。惜しくもチームが目標に掲げていたベスト8には届きませんでした。代表選手から感じられた熱い思いと一体感、また最後まで諦めない姿勢は、どの世界にも通じるものがあったのではないでしようか。

さて、愛南町から世界に目を向けてみますと、県ブランド戦略課と町農業支援センターの連携のもと、JAえひめ南が管理する輸出用園地で収穫された本町の特産である河内晩柑が昨年スイス、フランス、ドイツの3カ国に

初めて輸出されました。生果とジュースは完売するなど、現地の関心は高く、大変好評でありました。県は、今後も河内晩柑のブランド価値を高め、3カ国を中心に販売拡大を目指す方針ですので、町といたしましても、農業振興につながるこの取り組みに大いに期待しているところです。

また、昨年11月に、県立南宇和高校の地域振興研究部が、内閣府主催の「令和4年度未来をつくる若者・オブ・ザ・イヤー」において、内閣府特命大臣賞を受賞されました。同研究部は、本町が生産量日本一を誇る河内晩柑と「愛南ゴールド」を世界へ届けようと県内外で活動をはじめられ、東京オリンピック選手村への食材提供などさまざまな実績を築いてこられました。ご卒業された先輩方をはじめ、継続した活動がこのような大きな賞で認められたことは喜ばしい限りです。南宇和高校は、少子化の影響により生徒数が減少傾向にあります。生徒の進学意欲の向上や総合型選抜入試の対策等をサポートして多くの生徒の夢が叶えられるよう、町では昨年12月に「南光叶夢センター」を開設いたしました。当センターの講師の方々の顔触

れは多彩で、非常に興味を惹かれる経歴をお持ちですので、新たな教育環境が生徒の意欲向上につながることを念願しています。

水産分野におきましては、海洋ごみが世界中で大きな問題となっております。海面養殖が盛んな本町においても同様の問題となることから、漂着ごみマイクロプラスチックゼロを目指す「愛南町海洋環境保全プロジェクト」をスタートし、持続的な漁業の振興やまちづくりを推進するため、「愛南町SDGs水産環境未来都市構想」の策定を進めており、本町の大切な資源である漁場環境の保全に取り組みでまいります。

新型コロナウイルス感染症は、いまだ社会・経済活動に影響を与えています。本町ではウイズコロナを見据え、新たな試みとして昨年8月にマラソンと食を堪能する観光プログラムを掛け合わせた「愛南マラニック」を実施し、参加者等から好評を得たところです。また本町へのふるさと納税は、これまでにないペースで寄附金が寄せられています。今後も地域産業の振興につながるよう、本町の豊かな自然の中で、想いを込めて育てられた多くの魅力

ある自慢の産品を発信し、町の魅力を高めて参ります。

四国横断自動車道「宿毛内海道路」は、「内海・御荘」、「一本松・宿毛新港」の2区間が新たに事業化の決定を受けていますが、今後も未事業化区間である「御荘・一本松」区間の新規事業化と事業化が決定されている区間の早期完成に向けた要望活動に取り組んで参ります。

今年が卯年です。新しいことに挑戦するのに最適な年とされています。積極的に行動し、一体感をもって町政に取り組んで参りますので、町民の皆さまには引き続き温かいご指導、一層のご協力をお願いいたします。

本年が町民の皆さまにとりましても、幸多き飛躍の年となりますことを心からお祈り申し上げます。年頭のごあいさつといたします。



愛南町長 清水 雅文

## チャレンジと飛躍の年に

あけましておめでとうございます。

輝かしい新春をご家族お揃いで迎えのことと、心からお慶び申し上げます。

年頭にあたり、議会を代表して謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

町民の皆さまには、日頃から議会運営や議会活動に対し、温かいご支援ご協力を賜り心から感謝申し上げます。

いったんは収束の兆しを見せつつも、今なおオミクロン株等の新たな変異ウイルスに先行きの不安が消えない新型コロナウイルス感染症によって、社会経済活動はまだまだ停滞感が拭えません。世界に目を向けてみると、ロシアのウクライナへの侵攻は、「力による現状変更」に強く反対する国際的な「連帯」を生みましたが、同時に国際秩序に歪みと新たな対立構造を作り、戦争への不安を拡大させています。日本経済においては、急激な円安の進行、穀物、燃料、肥料等の高騰が国民生活に深刻な影響を与えています。

す。振り返ると昨年は暗いニュースが多かったように思います。しかし、愛南町にとっては明るい兆しが見えた一年でもありました。愛南町が生産量日本一を誇る「愛南ゴールド」が欧州に販路を拡大することになりました。欧州では、既に高知県産の柚子が人気を得ていますが、それに続く商材として和製グレープフルーツとも呼ばれる「愛南ゴールド」に白羽の矢が立ったものです。欧州向け専用の名称として「Misho」で商標登録され、まずは生果100キロと瓶入りリストレート果汁300本がスイス、フランス、ドイツに輸出されました。来シーズンの本格的な輸出に大いに期待をしているところです。

また、水産業においても「愛南町エスディーズSDGs水産環境未来都市構想」による持続可能な水産のまちづくりがスタートしました。具体的には、海洋プラスチックごみを燃料化する計画や、駆除したウニを商品化して藻場を再生させるプロジェクト、タイなどの食品加工残渣を再利用する試みなどですが、町の水産業にとって「百年の計」となる、大きなチャレンジだと考えています。

教育分野においても昨年12月から、南宇和高校魅力化推進事業として「南光叶夢センター」を開設し、専門のスタッフが高中生の自学自習および入試対策の支援を行うことになりました。進学を希望する多くの南高生がここで学び、それぞれの夢を実現されることを願っています。

愛南町議会としましても、議会改革の柱である「議会基本条例」に沿って、説明責任を果たす開かれた議会となるよう、丁寧な議会活動を行ってまいりました。昨年10月に開いた議会報告会においては、開催方法を変え、大学教授のコーディネートのもと、全ての参加者からご意見、ご提言をいただき、議会としてそれに回答できたことは大変貴重な経験でした。自由な意見交換の時間が少ないとのことご批判も受けましたが、「報告会のスタイルを変えるなど議会が前向きに取り組んでいる」との評価もいただき、次回につなげる報告会になったと感じています。議会の役割は、限られた資源や財源の中で最適で最上の効果を得る政策は何なのか、議論を尽くし判断していくことです。その最適解を議論するために、今後とも町民の皆さまの

さまざまな声を大切にしたいと考えています。

今年、「卯年」です。「卯」は、穏やかなうさぎの様子から安全、温和の意味があるようですが、うさぎのように跳ねあがるという意味もあり、卯年は何かを開始するのに縁起が良く、希望があふれ、景気回復、好転するよい年になると言われています。今年が愛南町にとってチャレンジと飛躍の年となるよう議員一同真摯な議会活動に努めてまいりますので、本年も変わらぬご理解とご協力を賜りますことを切にお願い申し上げます。

そして、この一年が町民の皆さまにとりまして、幸多き年となりますよう心からお祈り申し上げます。新年の挨拶といたします。



たっや  
愛南町議会議長 原田達也